

令和 7 年度

事業概要

福岡市食肉衛生検査所

福岡市東区東浜二丁目 8 5 番地 1 4

〒812-0055 TEL (092) 651-3404

FAX (092) 651-9015

目 次

第Ⅰ章 総説	ページ
1 食肉衛生検査所の沿革	2
2 検査所の概要	4
3 組織・機構	5
4 勤務体制	5
5 食肉衛生検査所の事務分掌	5
6 手数料	5
7 主要検査機器	6
8 と畜場の概要	7
第Ⅱ章 事業概要	
1 概況	9
2 疾病の排除	11
(1) と畜検査頭数	11
ア 年度別と畜検査頭数	
イ 月別と畜検査頭数	
(2) 病畜検査頭数	12
ア 年度別病畜検査頭数	
イ 月別病畜検査頭数	
(3) 処分状況	13
ア 年度別処分状況	
イ 処分状況内訳	
ウ 年度別全部廃棄件数	
エ 畜種別疾病別一部廃棄件数	
オ 畜種別主要臓器別一部廃棄内訳	
(4) 試験室検査	24
ア 病理検査	
イ 微生物検査	
ウ 理化学検査	
3 と畜場内の衛生管理	27
4 残留有害物質の排除	28
5 輸出肉衛生証明	30
第Ⅲ章 調査・研究	
1 調査・研究発表状況	32

第 I 章 総 説

1 食肉衛生検査所の沿革

昭和 3 年 4 月	明治 42 年開設の筑紫郡堅粕町立屠場が市町村合併により、福岡市立屠場となる。
昭和25 年 4 月	屠場法改正により、と畜検査業務が県から市に移管、同時に、と畜検査員の身分も県から市に移管される。
昭和28 年 8 月	と畜場法が制定され、従前の屠場法が廃止される。
昭和34 年 9 月	中央卸売市場法にもとづく食肉市場が箱崎七丁目に設置される。旧市立と畜場は廃止され、新設のと畜場は食肉市場と共に、産業界中央卸売市場が統轄する。 と畜検査は厚生局環境衛生課の所管となり、と畜場の管理と衛生検査、指導業務の責任分担制となる。と畜検査員 4 名。
昭和35 年 3 月	福岡市と畜場法施行細則施行。
昭和36 年 4 月	環境衛生課内に係長級の検査長が配置される。
昭和37 年11 月	衛生局環境衛生課の現場事務所として、食肉衛生検査所を設置。 所長以下と畜検査員 5 名。
昭和39 年 3 月	食肉市場敷地内に検査所庁舎完成。鉄筋コンクリート 2 階建、総面積 320 m ² 、病理・細菌検査室を有する。
昭和39 年 4 月	日本脳炎流行予測調査事業として、市場入荷豚の HI 抗体調査開始。
昭和40 年 4 月	と畜検査員1名、事務員1名が増員配置され、所長以下7名。
昭和48 年 4 月	機構改革により、食肉衛生検査所は食品衛生検査所に名称変更されて、課に昇格し、食肉係と鮮魚青果係の 2 係となる。食肉係は所長以下 11 名。
昭和49 年12 月	と畜検査員 2 名が増員され、所長以下 13 名。
昭和53 年 4 月	機構改革により、1 課 1 係制として食肉衛生検査所となる。所長以下 13 名。
昭和56 年 4 月	残留抗菌性物質検査を開始。
昭和60 年 4 月	抗菌性物質の精密検査担当主査を配置。検査とその後の措置及び処分並びに指導の強化を図る。所長以下 14 名。
昭和62 年 3 月	検査所庁舎を増改築し、3階建、総面積673m ² に拡充整備を図る。 残留農薬の検査を開始する。
平成 3 年 4 月	精密検査担当主査を専門化し、理化学検査担当主査及び病理・微生物検査担当主査を配置。また、食鳥検査担当主査と担当者 1 名を配置。所長以下 16 名。
平成 4 年 4 月	機構改革により、食鳥検査担当主査制は食鳥検査係制となり、1課2係制となる。 また、食鳥検査担当者 1 名の増員（計 2 名）により所長以下 17 名となる。

平成 5 年 4 月	病理・微生物検査担当主査を病理検査担当と微生物検査担当に分け主査を配置。 また、週休 2 日制対応のため、と畜検査員 1 名の増員により所長以下 18 名となる。
平成 6 年 1 月	都市計画道路箱崎ふ頭粕屋線街路整備に伴い、検査所を食肉市場敷地内に新築移転。鉄骨造3階建、総面積914㎡。
平成 6 年12 月	大規模食鳥処理場の市外移転に伴い、食鳥検査係制は食鳥検査担当主査制となり、再び 1 課 1 係制となる。また、食鳥検査担当者は 2 名の減員により所長以下 16 名となる。
平成 7 年 4 月	機構改革により、食鳥検査担当主査が廃止され所長以下 15 名となる。 日本脳炎流行予測調査事業を衛生試験所に移管する。
平成 9 年 4 月	機構改革に伴い、食肉衛生検査所の事務分担等の見直しが行われる。また、病原微生物対策専任主査を新設。所長以下 15 名。
平成12 年 4 月	と畜場・食肉市場は、ともに東区東浜二丁目に新築移転し、福岡市中央卸売市場臨海市場となる。それに伴い、食肉衛生検査所は新市場管理厚生棟の 3 階（総面積 962 ㎡）に移転。
平成14 年 4 月	食肉係を食肉第 1 係、微生物検査担当主査及び病原微生物対策専任主査を統合し食肉第 2 係を新設し、1 課 2 係制となる。BSE 検査に対応するため、と畜検査員を 1 名増員するとともに、事務職に替えてと畜検査員を配置。所長以下 16 名。
平成15 年 4 月	係の名称を食肉第 1 係・食肉第 2 係から食肉検査第 1 係・食肉検査第 2 係へ係名称変更。夜間病畜検査員（嘱託職員）を廃止し、昼間のと畜検査員（嘱託職員）を配置。
平成17 年 4 月	保健福祉局の機構改革により、と畜検査員を 1 名減員。所長以下 15 名。
平成19 年 4 月	と畜場の名称変更により福岡市中央卸売市場食肉市場（生産施設）となる。
平成22 年 3 月	と畜場及び併設食肉処理施設が対マカオ輸出食肉取扱施設に選定される。
平成24 年 4 月	勤務時間を A 勤務（午前 8 時 00 分～午後 4 時 30 分）及び B 勤務（午前 10 時 00 分～午後 6 時 30 分）のシフト勤務制へ変更。
平成25 年 4 月	機構改革により、食肉検査第 1 係・食肉検査第 2 係の 1 課 2 係体制から、病理検査係・微生物検査係・理化学検査係の 1 課 3 係体制となる。
平成25 年12 月	と畜場及び併設食肉処理施設が対タイ輸出食肉取扱施設に認定される。
平成27 年 10 月	と畜場及び併設食肉処理施設が対ミャンマー輸出食肉取扱施設に認定される。
平成28 年 6 月	と畜場及び併設食肉処理施設が対ベトナム輸出食肉取扱施設に登録される。

2 検査所の概要

- (1) 所在地
〒812-0055
福岡市東区東浜二丁目 8 5 番地 1 4

TEL 092-651-3404
FAX 092-651-9015

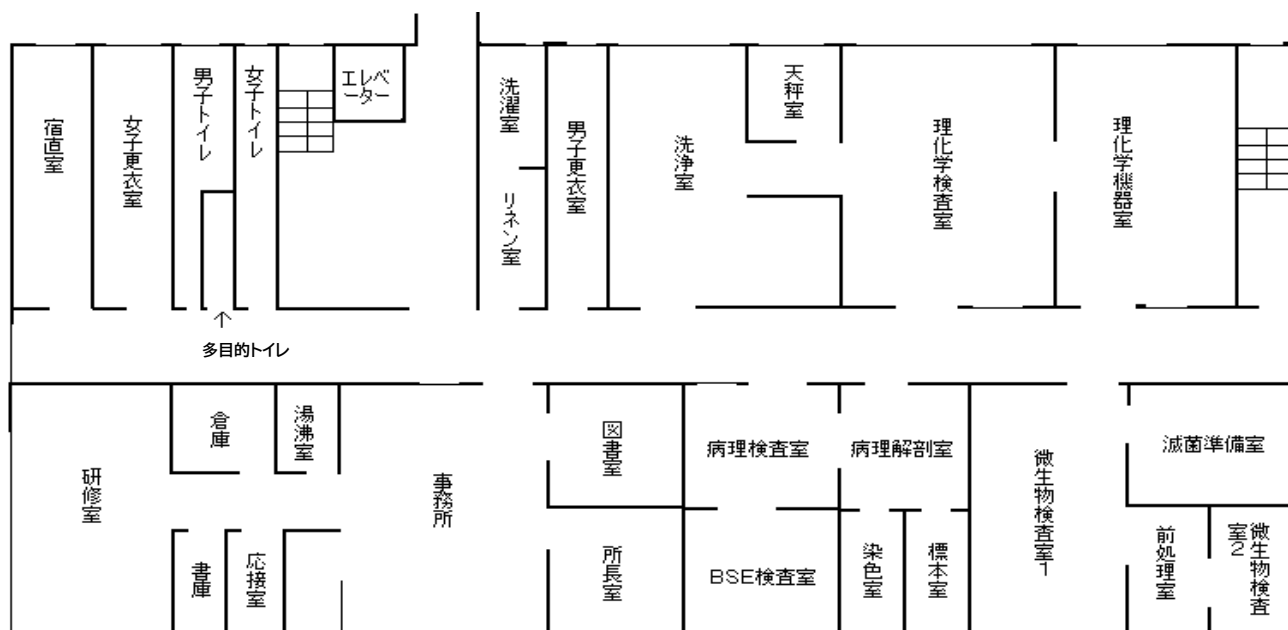
- (2) 庁舎建設年月日
平成 12 年 4 月 1 日

- (3) 庁舎の所有者
福岡市農林水産局中央卸売市場

- (4) 庁舎の構造・面積（単位 m²）
管理厚生棟 3 階

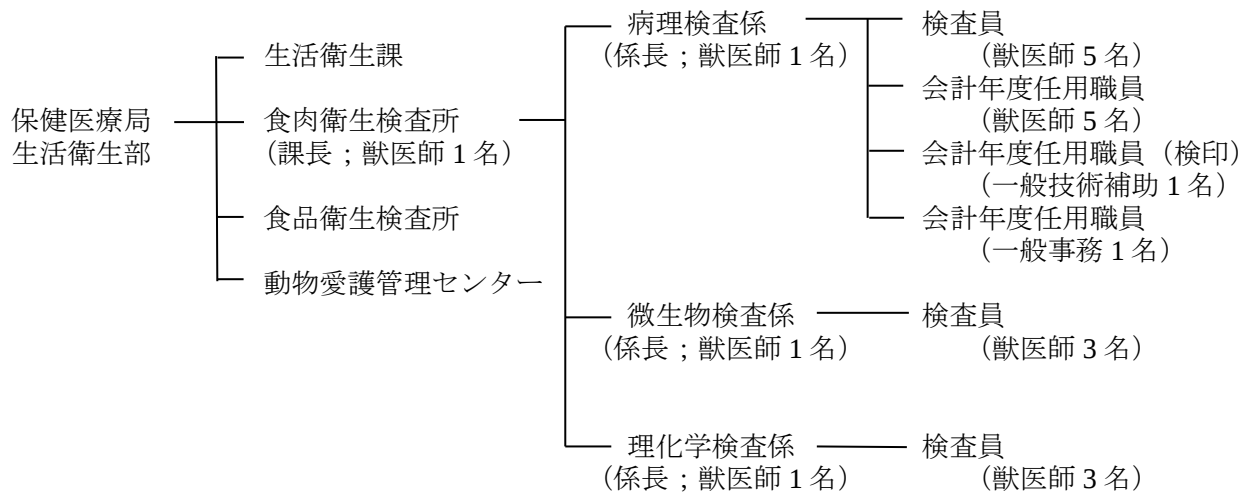
総面積	962.00
事務室関係	550.52
事務室	119.47
所長室	28.00
研修室	62.87
その他	340.18
微生物検査関係	123.07
微生物検査室 1	60.20
微生物検査室 2	18.85
前処理室	17.50
滅菌準備室	26.52
理化学検査関係	119.01
理化学検査室	66.85
理化学機器室	39.42
天秤室	10.15
その他	2.59
病理検査関係	92.40
病理検査室	32.20
病理解剖室	32.20
標本包埋室	14.00
染色室	14.00
BSE 検査室	28.00
検査関係 その他	49.00

- (5) 庁舎の平面図



3 組織・機構

令和 8 年 3 月末現在



4 勤務体制

- (1) 勤務時間
- ・ A 午前 8 時 00 分～午後 4 時 30 分 (週 38 時間 45 分)
 - ・ B 午前 10 時 00 分～午後 6 時 30 分 (週 38 時間 45 分)
 - ・ 会計年度任用職員 (獣医師) (週 27 時間 30 分)

- (2) 勤務日
- 月曜日～金曜日及び臨時開場日
- (国民の祝日及び 12 月 29 日～1 月 3 日を除く。)

5 食肉衛生検査所の事務分掌 (福岡市事務分掌規則から抜粋)

食肉衛生検査所の所掌する事務は、次のとおりとする。

- (1) 食肉となる獣畜及び食肉等の検査及び処分に関すること。
- (2) 食品衛生法 (昭和 22 年法律第 233 号)、食品表示法 (平成 25 年法律第 70 号) 及びと畜場法 (昭和 28 年法律第 114 号) に基づく衛生上の指導、監視、措置等に関すること。
- (3) その他特に命じる事項に関すること。

6 手数料

- (1) と畜検査手数料 (平成 28 年 4 月改定)
- ・ 大動物 (牛・馬) 600 円
 - ・ 小動物 (とく・豚・めん山羊) 300 円
- (2) その他の証明書の交付手数料 300 円

7 主要検査機器

令和8年3月末現在

微生物関係	数量
顕微鏡	1
実体顕微鏡	1
蛍光顕微鏡	1
顕微鏡撮影装置	2
遠心分離機	1
インキュベーター	3
オートクレーブ	2
振とう培養器	1
ストマッカー	1
乾熱滅菌器	1
遺伝子増幅システム	2
フリーザー	3
ゲル撮影装置	1
電子天秤	3
恒温水槽	1
冷蔵庫	4
高速冷却遠心機	1
安全キャビネット	1

理化学関係	数量
液体クロマトグラフ質量分析計	1
分光光度計	1
血液生化学自動分析装置	1
全自動血球計数装置	1
pH メーター	1
ドラフトチャンバー	1
超音波洗浄器	2
遠心分離機	4
インキュベーター	2
振とう器	2
超高速ホモジナイザー	3
製氷機	1
電子天秤	3
エバポレーター	4
冷却水循環装置	3
水分測定器	1
電気炉（マッフル炉）	1

病理関係	数量
三眼顕微鏡	2
顕微鏡撮影装置	1
パラフィン溶融器	1
パラフィン伸展器	4
自動包埋装置	1
滑走式マイクローム	1
回転式マイクローム	2
自動包埋ブロック作製装置	1
自動染色装置	1
-20℃フリーザー	1
ドラフトチャンバー	2
電子天秤	1
インキュベーター	1
マイクロプレートウォッシャー	1

BSE 関係	数量
マイクロプレートリーダー	2
マイクロプレートウォッシャー	1
細胞破砕機	2
微量冷却高速遠心機	2
インキュベーター	1
ブロックインキュベーター	4
安全キャビネット	2
電子天秤	2
オートクレーブ	1
保冷库	2

8 と畜場の概要

令和8年3月末現在

- (1) と畜場番号 福岡市 1
- (2) 名 称 福岡市中央卸売市場食肉市場（生産施設）
- (3) 設 置 者 福岡食肉市場株式会社 代表取締役 山本 三男
- (4) 所 在 地 福岡市東区東浜二丁目 8 5 番地 1 4
〒 812-0055
TEL 092-641-6131
- (5) 規 模
- ① 敷地面積 42,305 m²
 - ② 建築面積 16,534 m²
 - ③ けい留施設 大動物 1,096 m²
小動物 818 m²
 - ④ 処理能力 大動物 120 頭／日
小動物 600 頭／日
- (6) 付属施設
- ① 排水処理施設
処理方式 回転円板方式＋加圧浮上方式
 - ② 脱臭処理施設
処理方式 酸・アルカリ脱臭方式

(7) 福岡市中央卸売市場食肉市場（生産施設）開場日数

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
開場日数	244	247	246	245	246	244	244

令和7年度臨時開場日 5月6日、8月17日、11月22日、11月29日、12月6日、1月4日

第Ⅱ章 事業概要

1 概況

当検査所では、安全で衛生的な食肉を確保するため、福岡市中央卸売市場食肉市場において、「疾病の排除」、「と畜場内の衛生管理」及び「残留有害物質の排除」の3つを検査体制の柱として、業務を実施している。

(1) 疾病の排除

ア と畜検査頭数

と畜検査頭数は 148,674 頭で前年度と比べて 6,635 頭（4.7%）増加した。牛が 27,758 頭で前年度と比べて 414 頭（1.5%）減少、とく（12 か月齢未満の牛）が 5 頭で 4 頭（44.4%）減少、豚が 120,911 頭で 7,053 頭（6.2%）増加した。

イ 病畜・切迫とさつ

病畜として検査した獣畜は 605 頭で前年度と比べて 76 頭（14.4%）増加した。牛が 604 頭で前年度と比べて 80 頭（15.3%）増加、とくが 1 頭で 4 頭（80.0%）減少した。

切迫とさつ獣畜の搬入はなかった。

ウ 牛海綿状脳症（BSE）スクリーニング検査

生体検査において、原因不明の運動障害、知覚障害、反射異常、意識障害等の何らかの神経症状又は全身症状（事故による骨折、関節炎、熱射病等による起立不能等症状の原因が明らかな牛は除く。）を示す牛を対象に検査を実施した。検査頭数は 3 頭で、結果は全て陰性であった。

エ 精密検査

精密検査頭数は 221 頭（牛 97 頭、豚 124 頭）で前年度と比べて 10 頭増加した。病類別では、牛では牛伝染性リンパ腫での精密検査件数が最も多く、次いで敗血症が多かった。豚では敗血症での精密検査件数が最も多く、次いで膿毒症が多かった。

オ 処分状況

とさつ解体禁止頭数は 28 頭（牛 15 頭、豚 13 頭）であった。牛のとさつ解体禁止理由は、とさつ前死亡が 7 頭、高度の黄疸が 5 頭、尿毒症が 3 頭であった。豚のとさつ解体禁止理由は、とさつ前死亡が 13 頭であった。

全部廃棄頭数は 202 頭（牛 90 頭、豚 112 頭）で前年度と比べて 17 頭増加した。また、一部廃棄頭数は 98,638 頭で 5,327 頭増加し、一部廃棄件数は 152,745 件で 8,366 件増加した。

(2) と畜場内の衛生管理

ア 外部検証

と畜場や併設食肉処理場の巡回監視（現場検査）を 329 回、記録検査を 12 回実施した。また、枝肉の切り取り検査（細菌検査）等を行った。これらの結果は市場関係者に通知し、指導を行った。

イ 牛生体の体表汚れ調査

衛生的な牛生体の搬入を目的として、搬入された牛生体の体表汚れ調査を行い、その結果を市場関係者に情報提供した。

ウ 牛の消化管結紮率等調査

衛生的な牛の解体手技を確認するために、解体後検査時に食道及び直腸の結紮状況、十二指腸破れ状況を調査し、その結果を市場関係者に情報提供した。

(3) 残留有害物質の排除

ア 残留動物用医薬品検査

薬剤残留のおそれがある獣畜（病畜、起立不能畜、発育不良畜等）を対象に牛 505 頭、とく 5 頭、繁殖用豚 48 頭及び肉用豚 332 頭の計 890 頭についてスクリーニング検査を実施したところ、12 頭（牛 7 頭、繁殖用豚 2 頭、肉用豚 3 頭）が陽性であった。陽性畜については食品衛生法に基づく確認検査を実施した。その結果、牛 1 頭及び肉用豚 1 頭について腎臓で食品衛生法における残留基準

値を超過していた。また、筋肉で食品衛生法における残留基準値を超過していたものは無かった。

イ モニタリング検査

厚生労働省通知に基づき、主に福岡県産の健康畜牛 6 頭、豚 6 頭について動物用医薬品のモニタリング検査を実施した。結果は、すべて陰性又は基準値以下であった。

(4) その他

ア フィードバック（と畜検査データ還元）事業

福岡県家畜保健衛生所による生産者指導等の一助として、毎月、当検査所における福岡県内出荷者のと畜検査結果を家畜保健衛生所に送付するとともに、必要に応じて情報交換を行った。また、出荷頭数の多い出荷者等に対して、検査結果とともに疾病予防等に関する参考資料を送付し、健康な家畜の生産に寄与した（延べ118件）。さらに、診療獣医師に対し、必要に応じて検査結果のフィードバックを行った。

イ 食品衛生法に基づく検査等の業務管理

検査等の信頼性を確保するため、「福岡市食品衛生検査施設業務管理要綱」に基づき、内部・外部精度管理及び内部点検を実施した。

ウ 大学等研究機関への協力

大学等研究機関からの検体の採材依頼があった場合、福岡食肉市場株式会社（当市場における卸会社）の了解を得たうえで、検体採材に協力した。

エ 市民啓発事業

当市場の見学者に対し、当検査所の業務説明を行うとともに、食の安全安心についてリスクコミュニケーションを行った。

オ 食肉衛生証明

農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律に基づき、輸出先国の政府機関が定める認定要件を満たした適合施設においてとさつ等が行われた食肉は、輸出することができる。

当市場においては、牛肉についてはマカオ、タイ、ベトナム及びミャンマー向け、豚肉についてはマカオ、ベトナム及び香港向けの適合施設として認定されている。

当検査所では、食肉衛生証明書の発行申請を受け、要件を満たしていることを確認したものについて、食肉衛生証明書を発行した。

牛肉（マカオ 1,812 件、タイ 170 件、ベトナム 696 件、ミャンマー3 件）

カ 職員研修

当検査所職員を対象に以下の研修を実施した。

- ・新人研修（現場検査、関係法規、試験室検査法に関する各研修）
- ・事例研修（各臓器の病理、精密検査となる重要・希少症例について等）

2 疾病の排除

(1) と畜検査頭数

ア 年度別と畜検査頭数

年度	計	牛	とく	豚	馬	めん羊	山羊
R1	152,251	23,341	12	128,898	-	-	-
R2	151,864	25,853	15	125,996	-	-	-
R3	151,445	27,831	10	123,604	-	-	-
R4	144,469	26,711	6	117,752	-	-	-
R5	136,172	26,191	11	109,970	-	-	-
R6	142,039	28,172	9	113,858	-	-	-
R7	148,674	27,758	5	120,911	-	-	-

※とさつ解体禁止頭数を含む。

イ 月別と畜検査頭数

月	計	牛	とく	豚	馬	めん羊	山羊
R7年4月	13,051	2,554	-	10,497	-	-	-
5月	11,993	2,344	-	9,649	-	-	-
6月	10,903	2,285	-	8,618	-	-	-
7月	12,098	2,678	2	9,418	-	-	-
8月	10,262	1,954	-	8,308	-	-	-
9月	11,938	2,331	2	9,605	-	-	-
10月	13,488	2,435	-	11,053	-	-	-
11月	13,235	2,462	-	10,773	-	-	-
12月	12,912	2,344	-	10,568	-	-	-
R8年1月	13,270	2,258	-	11,012	-	-	-
2月	12,263	2,093	-	10,170	-	-	-
3月	13,261	2,020	1	11,240	-	-	-
年度計	148,674	27,758	5	120,911	-	-	-

※とさつ解体禁止頭数を含む。

(2) 病畜検査頭数

ア 年度別病畜検査頭数

年度	計	牛	とく	豚	馬	めん羊	山羊
R1	543	539	4	-	-	-	-
R2	518	510	8	-	-	-	-
R3	489	482	7	-	-	-	-
R4	585	580	5	-	-	-	-
R5	589	582	7	-	-	-	-
R6	529	524	5	-	-	-	-
R7	605	604	1	-	-	-	-

イ 月別病畜検査頭数

月	計	牛	とく	豚	馬	めん羊	山羊
R7年4月	45	45	-	-	-	-	-
5月	29	29	-	-	-	-	-
6月	46	46	-	-	-	-	-
7月	48	48	-	-	-	-	-
8月	43	43	-	-	-	-	-
9月	62	62	-	-	-	-	-
10月	70	70	-	-	-	-	-
11月	55	55	-	-	-	-	-
12月	57	57	-	-	-	-	-
R8年1月	59	59	-	-	-	-	-
2月	33	33	-	-	-	-	-
3月	58	57	1	-	-	-	-
年度計	605	604	1	-	-	-	-

(3) 処分状況
ア 年度別処分状況

年度	検査頭数	とさつ解体禁止	処 分 実 頭 数			一 部 廃 棄 処 分 件 数		
			計	全部廃棄	一部廃棄	計	と肉	内臓
R1	152,251	41	114,145	177	113,968	179,083	11,389	167,694
			(74.97)	(0.12)	(74.86)			
R2	151,864	18	109,568	243	109,325	172,261	15,196	157,065
			(72.15)	(0.16)	(71.99)			
R3	151,445	29	114,309	259	114,050	182,037	15,973	166,064
			(75.48)	(0.17)	(75.31)			
R4	144,469	32	107,951	242	107,709	170,238	13,320	156,918
			(74.72)	(0.17)	(74.56)			
R5	136,172	26	103,419	180	103,239	164,442	14,095	150,347
			(75.95)	(0.13)	(75.82)			
R6	142,039	32	93,496	185	93,311	144,379	14,992	129,387
			(65.82)	(0.13)	(65.69)			
R7	148,674	28	98,840	202	98,638	152,745	15,779	136,966
			(66.48)	(0.14)	(66.35)			

() は廃棄率：廃棄処分実頭数／検査頭数×100

イ 処分状況内訳

		処分 実頭数	病 類 別 頭 数																	
			総 数	細 菌 病				寄 生 虫 病			膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	中 毒 諸 症	炎 症	変 性	そ の 他
				豚 丹 毒	サル モ ネ ラ 症	放 線 菌 病	そ の 他	の う 虫	ジ ス ト マ	そ の 他										
計	禁 止	28	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	20
	全部廃棄	202	202	4	-	-	-	-	-	-	18	106	1	4	7	2	-	-	-	60
	一部廃棄	98,638	116,217	-	-	22	-	-	155	-	-	-	-	28	3,193	4	-	87,147	6,503	19,165
牛	禁 止	15	15		-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	7
	全部廃棄	90	90		-	-	-	-	-	-	5	22	1	2	2	2	-	-	-	56
	一部廃棄	20,803	33,505		-	22	-	-	155	-	-	-	-	27	2,769	3	-	13,938	3,175	13,416
とく	禁 止	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全部廃棄	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一部廃棄	5	6		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-
豚	禁 止	13	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
	全部廃棄	112	112	4		-	-	-	-	-	13	84	-	2	5	-	-	-	-	4
	一部廃棄	77,830	82,706	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	424	1	-	73,204	3,327	5,749

ウ 年度別全部廃棄件数

(i) 総数

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
計	177	243	259	242	180	185	202
牛伝染性リンパ腫	59	76	74	43	47	54	54
サルモネラ症	-	-	7	-	3	-	-
豚丹毒	2	-	-	-	10	1	4
白血病	2	1	1	1	2	2	6
膿毒症	39	63	66	85	25	24	18
敗血症	68	87	101	102	78	93	106
尿毒症	-	5	1	2	2	-	1
高度の黄疸	5	6	4	6	6	5	4
高度の水腫	2	2	2	1	4	2	7
全身性腫瘍	-	3	3	2	3	4	2

(ii) 牛・とく

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
計	83	102	96	69	72	74	90
牛伝染性リンパ腫	59	76	74	43	47	54	54
白血病	1	-	-	1	1	1	2
膿毒症	1	2	3	4	4	5	5
敗血症	21	11	12	12	11	7	22
尿毒症	-	5	1	2	2	-	1
高度の黄疸	-	4	2	4	2	1	2
高度の水腫	1	1	1	1	3	2	2
全身性腫瘍	-	3	3	2	2	4	2

(iii) 豚

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
計	94	141	163	173	108	111	112
サルモネラ症	-	-	7	-	3	-	-
豚丹毒	2	-	-	-	10	1	4
白血病	1	1	1	-	1	1	4
膿毒症	38	61	63	81	21	19	13
敗血症	47	76	89	90	67	86	84
尿毒症	-	-	-	-	-	-	-
高度の黄疸	5	2	2	2	4	4	2
高度の水腫	1	1	1	-	1	-	5
全身性腫瘍	-	-	-	-	1	-	-

エ 畜種別疾病別一部廃棄件数

畜 種		牛	とく	豚
検 査 頭 数		27,758	5	120,911
一 部 廃 棄 実 頭 数		20,803	5	77,830
廃 棄 率 (%)		74.94	100.00	64.37

疾病件数 総 計		39,308	14	116,357		
	部位	疾病名称	牛	とく	豚	
呼 吸 器 系	肺	肺気腫	355	0	28	
		肺炎	977	2	332	
		カタル性肺炎	564	2	0	
		胸膜炎	1,271	0	8,489	
		肺膿瘍	154	0	1,867	
		肺出血	131	0	37	
		肺放線菌病	1	0	0	
		肺水腫	1	0	4	
		肺色素沈着	6	0	0	
		M P S (軽度)	0	0	31,913	
		M P S (中度)	0	0	3,654	
		M P S (重度)	0	0	950	
		胸膜肺炎	0	0	1,312	
		血液吸入肺	348	0	1,063	
		異物吸入肺	173	0	0	
		炎症産物汚染 (肺)	52	0	40	
		小 計	4,033	4	49,689	
		疾病件数に占める割合 (%)	10.26	28.57	42.70	
	横 隔 膜	横隔膜炎	6	0	1,442	
		サガリ炎症	16	0	0	
		横隔膜炎 1 / 2	17	0	0	
		横隔膜膿瘍	10	0	5	
		サガリ膿瘍	3	0	0	
		横隔膜膿瘍 1 / 2	152	0	0	
		横隔膜変性	2	0	3	
		サガリ変性	42	0	0	
		横隔膜変性 1 / 2	13	0	0	
		横隔膜出血	69	0	1	
		サガリ出血	311	0	0	
		横隔膜出血 1 / 2	14	0	0	
		横隔膜水腫	20	0	0	
		サガリ水腫	194	0	0	
		横隔膜水腫 1 / 2	23	0	0	
		炎症産物汚染 (横隔膜)	1	0	61	
		炎症産物汚染 (サガリ)	85	0	0	
		炎症汚染横隔膜 (1 / 2)	12	0	0	
		小 計	990	0	1,512	
		疾病件数に占める割合 (%)	2.52	0.00	1.30	
		中 計		5,023	4	51,201
		疾病件数に占める割合 (%)		12.78	28.57	44.00

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
循 環 器 系	心 臓	心外膜炎	329	1	6,002
		心内膜炎	6	0	0
		心筋炎	1	0	2
		心筋膿瘍	0	0	1
		心筋変性	31	0	36
		心色素沈着	4	0	0
		心筋出血	92	0	11
		心肥大	0	0	18
		心筋水腫	3	0	17
		心臓の黄疸	4	0	1
		好酸球性心筋炎	49	0	0
		心弁膜症	0	0	169
		炎症産物汚染（心臓）	20	0	64
		心冠脂肪水腫	30	0	0
		小 計	569	1	6,321
		疾病件数に占める割合（％）	1.45	7.14	5.43
		躯幹リンパ節炎	0	0	58
		躯幹リンパ節膿瘍	2	0	98
		頭部リンパ節乾酪変性	0	0	101
		頭部リンパ節膿瘍	0	0	125
		小 計	2	0	382
		疾病件数に占める割合（％）	0.01	0.00	0.33
		脾炎	2	0	0
		脾うつ血	0	0	2
		小 計	2	0	2
		疾病件数に占める割合（％）	0.01	0.00	0.00
	中 計		573	1	6,705
	疾病件数に占める割合（％）		1.46	7.14	5.76

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
消化器系	舌	舌膿瘍	5	0	0
		舌筋変性	1	0	0
		舌放線菌病	21	0	0
		炎症産物汚染（舌）	3	0	0
		小 計	30	0	0
		疾病件数に占める割合（％）	0.08	0.00	0.00
	胃	小腸炎（胃腸全廃）	0	0	1,355
		大腸炎	37	0	1
		大腸炎（胃腸全廃）	0	0	1,924
		腸間膜脂肪壊死（胃腸）	131	0	0
		腸間膜脂肪壊死（大腸）	112	0	0
		腸間膜脂肪水腫（胃腸）	16	0	51
		腹膜炎	14	0	399
		胃炎	9	0	0
		胃炎（胃腸全廃）	0	0	6
		胃腸炎	3,938	5	1,332
		腸気泡症	0	0	27
		炎症産物汚染（胃腸）	64	0	26
		炎症産物汚染（胃）	1	0	0
		小 計	4,322	5	5,121
		疾病件数に占める割合（％）	11.00	35.71	4.40
	腸	肝蛭症	155	0	0
		胆管炎	1,303	0	0
		肝膿瘍	898	0	15
		肝出血	4,502	0	61
		肝出血 1 / 2	1	0	0
		肝包膜炎	836	1	21,953
		肝包膜炎 1 / 2	24	0	0
		鋸屑肝	1,218	0	0
		退色肝	259	1	1,312
		肝富脈斑	2,758	0	0
		肝硬変	1	0	4
		肝炎	801	1	499
		肝静脈炎	141	0	0
		肝静脈炎 1 / 2	1	0	0
		肝色素沈着	25	0	0
		うっ血肝	196	0	1,698
		ニクヅク肝	7	0	0
		肝嚢胞	23	0	1
		肝臓の腫瘍	1	0	0
		産褥肝	4	0	0
		肝臓の黄疸	25	0	0
		間質性肝炎	0	0	13,747
		肝線維症	0	0	17
		炎症産物汚染（肝臓）	18	0	61
		小 計	13,197	3	39,368
		疾病件数に占める割合（％）	33.57	21.43	33.83
		中 計	17,549	8	44,489
		疾病件数に占める割合（％）	44.64	57.14	38.23

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
泌 尿 生 殖 器 系	腎 <				

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
運 動 器 系	筋	筋炎	3	0	2
		テール筋炎	1	0	0
		筋膿瘍	79	0	373
		頭部筋膿瘍	1	0	245
		テール筋膿瘍	3	0	0
		筋変性	185	0	49
		頭部筋変性	1	0	3
		テール筋変性	5	0	0
		筋水腫	127	0	49
		テール筋水腫	16	0	0
		筋出血	623	0	338
		頭部筋出血	0	0	1
		テール筋出血	67	0	0
	肉	頭部の放線菌病	17	0	0
		筋血腫	119	0	0
		筋脂肪変性	1	0	16
		炎症産物汚染（枝一部）	1	0	0
		潤滑油汚染（枝一部）	1	0	0
		炎症産物汚染（頭部）	2	0	0
		炎症産物汚染（テール）	15	0	0
		腹膜の膿瘍	41	0	40
		胸膜の膿瘍	18	0	366
		小 計	1,326	0	1,482
		疾病件数に占める割合（％）	3.37	0.00	1.27
	骨	化膿性骨炎（骨膿瘍）	3	0	42
		骨折	1	0	15
		骨奇形	4	0	14
		尾咬症	0	0	40
		小 計	8	0	111
		疾病件数に占める割合（％）	0.02	0.00	0.10
		関節炎	50	0	377
		関節膿瘍	2	0	41
		小 計	52	0	418
		疾病件数に占める割合（％）	0.13	0.00	0.36
	中 計		1,386	0	2,011
	疾病件数に占める割合（％）		3.53	0.00	1.73

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
その他	皮下組織	皮下膿瘍	97	0	711
		皮下出血	7,756	0	3,413
		皮下水腫	2,492	0	330
		皮下の変性	404	0	109
		皮下の色素沈着	1	0	2
		小 計	10,750	0	4,565
		疾病件数に占める割合 (%)	27.35	0.00	3.92
	乳房	乳房炎	0	0	1
		小 計	0	0	1
		疾病件数に占める割合 (%)	0.00	0.00	0.00
	内臓全部	抗酸菌症	0	0	2,253
		胸腹膜炎	0	0	1,224
		小 計	0	0	3,477
		疾病件数に占める割合 (%)	0.00	0.00	2.99
	中 計		10,750	0	8,043
	疾病件数に占める割合 (%)		27.35	0.00	6.91
	その他	大腸の一部廃棄	911	0	0
		精密検査：内臓全廃	7	0	12
		抗菌性物質残留（腎）	1	0	1
		抗菌性物質検査内臓	4	0	382
		精密検査：胃腸全廃	2	0	0
		小 計	925	0	395
		疾病件数に占める割合 (%)	2.35	0.00	0.34
	中 計		925	0	395
	疾病件数に占める割合 (%)		2.35	0.00	0.34

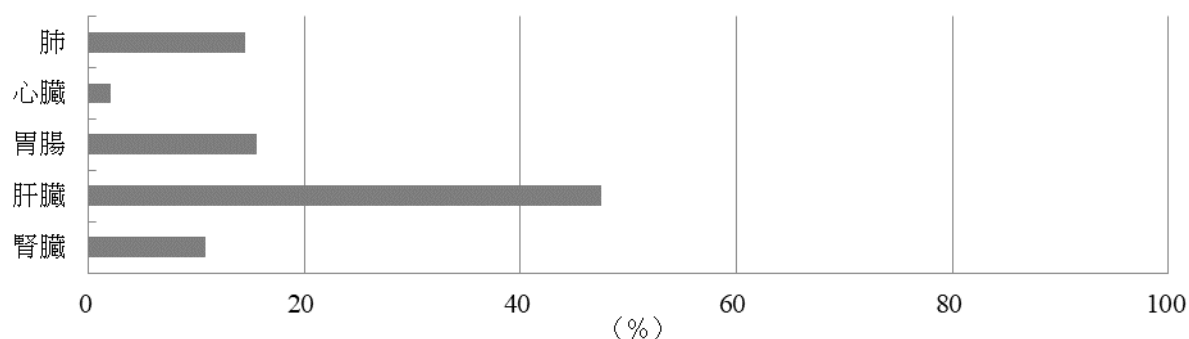
オ 畜種別主要臓器別一部廃棄内訳

(i) 牛

年度		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
検査頭数		23,341	25,853	27,831	26,711	26,191	28,172	27,758
肺	件数	3,652	4,558	4,082	3,298	3,439	3,776	4,033
	廃棄率 (%)	15.65	17.63	14.67	12.35	13.13	13.40	14.53
心臓	件数	784	911	1,031	610	595	614	569
	廃棄率 (%)	3.36	3.52	3.70	2.28	2.27	2.18	2.05
胃腸	件数	3,623	4,281	6,260	4,471	4,046	4,819	4,322
	廃棄率 (%)	15.52	16.56	22.49	16.74	15.45	17.11	15.57
肝臓	件数	10,692	12,715	14,041	13,324	12,648	13,514	13,197
	廃棄率 (%)	45.81	49.18	50.45	49.88	48.29	47.97	47.54
腎臓	件数	2,041	2,831	2,969	2,476	3,311	3,452	3,022
	廃棄率 (%)	8.74	10.95	10.67	9.27	12.64	12.25	10.89

廃棄率(%)=廃棄件数／検査頭数×100

牛では、肝疾患が全検査頭数の 47.54%に認められた。次に胃腸疾患が 15.57%に認められた。

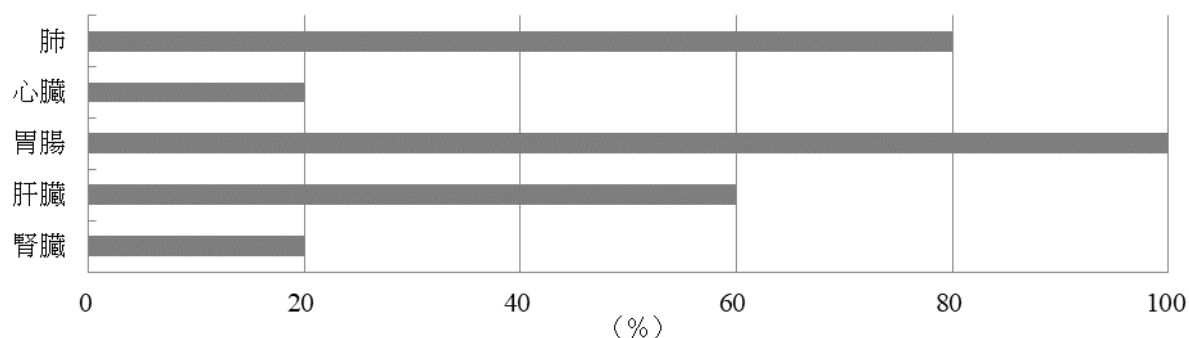


(ii) とく

年度		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
検査頭数		12	15	10	6	11	9	5
肺	件数	5	4	7	3	3	1	4
	廃棄率 (%)	41.67	26.67	70.00	50.00	27.27	11.11	80.00
心臓	件数	3	1	1	1	0	1	1
	廃棄率 (%)	25.00	6.67	10.00	16.67	0	11.11	20.00
胃腸	件数	11	15	8	6	11	9	5
	廃棄率 (%)	91.67	100.00	80.00	100.00	100.00	100.00	100.00
肝臓	件数	7	6	8	2	4	7	3
	廃棄率 (%)	58.33	40.00	80.00	33.33	36.36	77.78	60.00
腎臓	件数	1	1	5	0	1	1	1
	廃棄率 (%)	8.33	6.67	50.00	0.00	9.09	11.11	20.00

廃棄率(%)=廃棄件数／検査頭数×100

とくでは、胃腸疾患が全検査頭数の 100.00%に認められた。次に肺疾患が 80.00%に認められた。

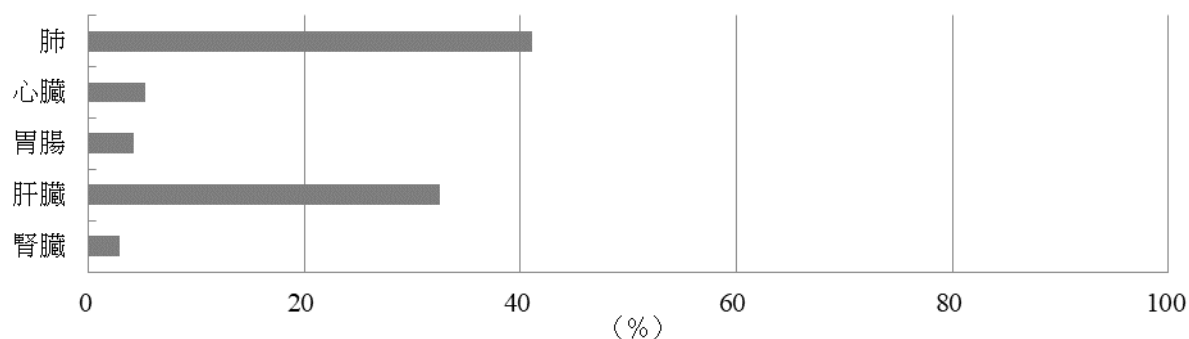


(iii) 豚

年度		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
検査頭数		128,898	125,996	123,604	117,752	109,970	113,858	120,911
肺	件数	49,863	42,006	37,254	42,423	39,952	41,562	49,689
	廃棄率 (%)	38.68	33.34	30.14	36.03	36.33	36.50	41.10
心臓	件数	7,374	7,641	8,663	6,217	5,054	5,831	6,321
	廃棄率 (%)	5.72	6.06	7.01	5.28	4.60	5.12	5.23
胃腸	件数	5,816	7,252	7,249	5,671	4,524	3,531	5,121
	廃棄率 (%)	4.51	5.76	5.86	4.82	4.11	3.10	4.24
肝臓	件数	70,443	60,845	70,263	66,326	63,462	40,956	39,368
	廃棄率 (%)	54.65	48.29	56.85	56.33	57.71	35.97	32.56
腎臓	件数	5,370	5,205	4,808	3,975	5,260	3,525	3,504
	廃棄率 (%)	4.17	4.13	3.89	3.38	4.78	3.10	2.90

廃棄率(%)=廃棄件数／検査頭数×100

豚では、肺疾患が全検査頭数の 41.10%に認められた。次に肝疾患が 32.56%に認められた。



(4) 試験室検査

ア 病理検査

(i) 精密検査

牛伝染性リンパ腫

牛 54 頭について検査を実施し、全頭を牛伝染性リンパ腫と診断し、全部廃棄処分とした。

白血病

牛 2 頭、豚 4 頭について検査を実施し、牛 2 頭、豚 4 頭を白血病と診断し、全部廃棄処分とした。

敗血症

豚 4 頭について検査を実施した。

全身性腫瘍

牛 4 頭について検査を実施し、2 頭を全身性腫瘍と診断し、全部廃棄処分とした。

精密検査結果

	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
牛伝染性リンパ腫	牛	60(59)	77(76)	74(74)	44(43)	48(47)	54(54)	54(54)
サルモネラ症	豚	-	-	12(5)	-	-	-	-
白血病	牛	-(1)	-	-	1(1)	1(1)	1(1)	2(2)
	豚	1(1)	1(1)	3(1)	-	1(1)	1(1)	4(4)
	計	1(2)	1(1)	3(1)	1(1)	2(2)	2(2)	6(6)
敗血症	牛	-	1(1)	-	-	-	-	-
	豚	1(-)	2(-)	3(-)	1(1)	10(4)	5(2)	4(-)
	計	1(-)	3(1)	3(-)	1(1)	10(4)	5(2)	4(-)
全身性腫瘍	牛	2(-)	5(3)	5(3)	2(2)	2(2)	5(4)	4(2)
	豚	-	-	-	-	1(1)	-	-
	計	2(-)	5(3)	5(3)	2(2)	3(3)	5(4)	4(2)
中毒諸症	牛	1(-)	-	-	-	-	-	-

他試験室検査との重複計上あり
()内は全部廃棄頭数

(ii) その他の検査

上記疾病以外でも、必要に応じて炎症・変性等が疑われる部位の病理組織検査を行った（5 件）。

イ 微生物検査

(i) 精密検査

敗血症

牛 25 頭、豚（豚丹毒を除く）93 頭について検査を実施し、牛 22 頭、豚 84 頭を敗血症と診断し、全部廃棄処分とした。

豚では主に、*Streptococcus* 属が分離された。

豚丹毒

豚 5 頭について検査を実施し、4 頭を豚丹毒と診断し、全部廃棄処分とした。

精密検査結果

	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
敗 血 症	牛	23(21)	16(11)	12(12)	12(12)	17(11)	9(6)	25(22)
	豚	58(47)	90(76)	99(89)	97(89)	72(63)	91(84)	93(84)
	計	81(68)	106(87)	111(101)	109(101)	89(74)	100(90)	118(106)
豚 丹 毒	関 節 炎 型	7(1)	2(-)	1(-)	-(-)	2(2)	-(-)	1(0)
	心内膜炎型	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	7(7)	-(-)	-(-)
	蕁麻疹型	2(1)	-(-)	-(-)	-(-)	1(1)	2(1)	4(4)
	計	9(2)	2(-)	1(-)	-(-)	10(10)	2(1)	5(4)
サルモネラ症	豚	-(-)	-(-)	20(7)	2(-)	4(3)	-(-)	-(-)

他試験室検査との重複計上あり
()内は全部廃棄頭数

ウ 理化学検査

(i) 精密検査

尿毒症

牛 1 頭について検査を実施し、牛 1 頭を尿毒症と診断し、全部廃棄処分とした。

高度の黄疸

牛 3 頭、豚 2 頭について検査を実施し、牛 2 頭、豚 2 頭を高度の黄疸と診断し、全部廃棄処分とした。

高度の水腫

牛 5 頭、豚 6 頭について検査を実施し、牛 3 頭、豚 5 頭を高度の水腫と診断し、全部廃棄処分とした。

精密検査結果

	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
尿 毒 症	牛	-	5(5)	1(1)	2(2)	2(2)	3(-)	1(1)
	豚	-	-	-	-	2(-)	-	-
	計	-	5(5)	1(1)	2(2)	4(2)	3(-)	1(1)
高 度 の 黄 疸	牛	-	6(4)	2(2)	5(4)	3(2)	5(1)	3(2)
	豚	7(5)	5(2)	2(2)	4(2)	6(4)	6(4)	2(2)
	計	7(5)	11(6)	4(4)	10(6)	9(6)	11(5)	5(4)
高 度 の 水 腫	牛	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	7(3)	3(2)	5(3)
	豚	1(1)	1(1)	1(1)	-	1(1)	-	6(5)
	計	2(2)	2(2)	2(2)	1(1)	8(4)	3(2)	11(8)
中 毒 諸 症	牛	-	-	-	-	-	-	-
	豚	-	-	-	-	-	-	-
	計	-	-	-	-	-	-	-

他試験室検査との重複計上あり
()内は全部廃棄頭数

(ii) 病畜等の血液生化学検査

病畜搬入時及び一般畜の生体検査時に異常を認めた場合には、必要に応じ通常の生体検査と併せて体温測定や採血を行い、血液塗沫の鏡検のほか血球検査、血液生化学検査を実施した（血球計数装置、血清生化学自動分析装置等を使用）。

主な血液生化学検査項目はBUN、BIL、GOT、TP、ALBであり、症例に応じてその他の項目の測定を実施した。

3 と畜場内の衛生管理

(1) 外部検証

外部検証実施計画に基づき、以下のとおり実施した。検証結果については、市場関係者に通知し、指導を行った。

ア 巡回監視（現場検査）

年度	R3	R4	R5	R6	R7
巡回監視回数	376	243	322	317	329

イ 記録検査

年度	R3	R4	R5	R6	R7
記録検査回数	14	14	12	12	12

ウ 枝肉切り取り検査等

	年度		R3	R4	R5	R6	R7
枝肉切り取り検査 検体数	牛枝肉	一般細菌数	60	60	60	60	60
		腸内細菌科 菌群数	60	60	60	60	60
	豚枝肉	一般細菌数	60	45	25	65※	60
		腸内細菌科 菌群数	60	45	25	65※	60
枝肉ふき取り検査	豚枝肉	一般細菌数	-	51	29	-	-
		腸内細菌科 菌群数	-	51	13	-	-
設備等細菌検査検体数		一般細菌数	-	-	7	-	-
		腸内細菌科 菌群数	-	-	7	-	-

※5 検体については、不定期に実施したもの。

(2) 牛生体の体表汚れ調査頭数

	R3	R4	R5	R6	R7
汚れなし	27,048 (97.2%)	25,698 (96.2%)	25,339 (96.7%)	27,562 (97.8%)	27,424 (98.8%)
汚れ軽度	748 (2.7%)	830 (3.1%)	702 (2.7%)	447 (1.6%)	228 (0.8%)
汚れ重度	45 (0.2%)	187 (0.7%)	155 (0.6%)	168 (0.6%)	111 (0.4%)

(3) 牛の消化管結紮率等調査

	R3	R4	R5	R6	R7
食道結紮脱落なし	97.3%	96.8%	98.0%	97.8%	97.0%
十二指腸破れなし	94.9%	93.9%	96.8%	96.3%	94.9%
直腸結紮脱落なし	99.7%	99.5%	99.7%	99.9%	99.9%

4 残留有害物質の排除

(1) 残留動物用医薬品検査

と畜検査において、動物用医薬品残留の可能性があると判断した獣畜（病畜、起立不能畜、とく等）を対象に、簡易検査を実施した（牛 505 頭、とく 5 頭、繁殖用豚 48 頭、肉用豚 332 頭の計 890 頭）。検査法は直接ディスク法※を実施し、特に当該検査法で検出が難しいセファゾリン等の残留を疑う検体については、追加で液体クロマトグラフ質量分析計による簡易一斉分析検査を実施した。これらの検査の結果、牛 7 頭、繁殖用豚 2 頭、肉用豚 3 頭の合計 12 頭で陽性を示した。

簡易検査陽性の獣畜については、生産者及び担当獣医師に薬剤の使用等についての事実確認を行うとともに、機器分析又は分別推定法による検査を実施した。

この結果、牛 1 頭、肉用豚 1 頭の腎臓から、食品衛生法における残留基準値を超える動物用医薬品が検出されたため、同法に基づき当該部位の廃棄措置を行った。

また、必要に応じ再発防止のため生産者又は担当獣医師に対して投薬歴の適正な申告を指導するとともに、家畜保健衛生所に情報提供を行った。

※ 直接ディスク法：腎臓にペーパーディスクを挟み込み一定時間放置した後、ディスクを試験菌を含む検査用平板（3 種類）上に置き 30℃で約 18 時間培養し、菌発育阻止円の有無により判定する方法。

残留動物用医薬品検査結果

			計	牛		とく		繁殖用豚		肉用豚	
				病畜	その他	病畜	その他	起立不能畜	その他	起立不能畜	その他
検査頭数			890	505		5		48		332	
				505	-	1	4	48	-	331	1
簡易検査陽性頭数			12	7		-		2		3	
				7	-	-	-	2	-	3	-
内訳	措置	筋肉（枝肉）廃棄	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		腎臓廃棄	2	1	-	-	-	-	-	1	-
		合格	10	6	-	-	-	2	-	2	-
	産地	福岡県内	6	3	-	-	-	1	-	2	-
		福岡県外	6	4	-	-	-	1	-	1	-
	違反等※	食品衛生法違反	2	1	-	-	-	-	-	1	-
		薬事法違反	1	1	-	-	-	-	-	-	-
		飼料安全法違反	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		法令違反不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		違反なし	10	6	-	-	-	2	-	2	-
	推定薬剤※	ペニシリン系	4	4	-	-	-	-	-	-	-
		テトラサイクリン系	4	-	-	-	-	2	-	2	-
		セフェム系	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		アミノグリコシド系	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		マクロライド系	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		その他の動物用医薬品	6	4	-	-	-	-	-	2	-

※違反、推定薬剤は重複あり

(2) 残留有害物質モニタリング検査

厚生労働省通知に基づき、福岡県内産を主とする一般畜について下表の項目についてモニタリング検査を実施した。

残留有害物質モニタリング検査結果

畜種	抗生物質 (抽出ディスク法)			動物用医薬品					
				一斉分析法※1			メタリン酸抽出試験法※2		
	検体数	陽性数		検体数	基準超過数		検体数	基準超過数	
		腎臓	筋肉		腎臓	筋肉		腎臓	筋肉
牛	6	-	-	6	-	-	3	-	-
豚	6	-	-	6	-	-	3	-	-
計	12	-	-	12	-	-	6	-	-

※1 一斉分析法

： エリスロマイシン、チルミコシン、リンコマイシン、オルビフロキサシン、ジフロキサシン、タノフロキサシン、ナリジクス酸、フルメキン、マルボフロキサシン、スルファクロルピリダジソン、スルファジニジン、スルファジミジン、スルファジメトキシ、スルファトキシ、スルファメトキサゾール、スルファメトキシピリダジソン、スルファメラジン、スルファモノメトキシ、オルメトロリム、トリメトロリム、ピリメタミン、イソプロチオラン、キシラジン、トリクロホン、プリフィニウム、フルニキシ、フルベンタゾール、R35475（フルベンタゾール代謝物）、マホフラジン、メトロプロラミド、メンブロン、レバミゾール

※2 メタリン酸抽出試験法

： アンピシリン、オキシリリン、フェキシメチルペニシリン、ベンジルペニシリン、メシナム、オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、テトラサイクリン、トキシサイクリン、セファゾリン、エンロフロキサシン、シプロフロキサシン、セフロキシム、クロキサリリン

5 輸出肉衛生証明

本市と畜場でとさつ解体され、併設食肉処理場で処理された食肉について、以下のとおり食肉衛生証明書を発行した。（R7 年度総計 2,681 件、重量 110,485.7 kg）

年度別輸出先国別証明件数・重量

	マカオ				タイ	
	牛肉		豚肉		牛肉	
	件数	重量 (kg)	件数	重量 (kg)	件数	重量 (kg)
R3	707	44,921.1	32	15,491.8	97	9,078.0
R4	981	48,430.6	17	8,000.2	284	32,632.8
R5	1,709	72,542.2	-	-	177	15,631.4
R6	2,209	80,424.0	-	-	217	25,225.7
R7	1,812	74,159.6	-	-	170	8,869.3

	ベトナム				ミャンマー		香港	
	牛肉		豚肉		牛肉		豚肉	
	件数	重量 (kg)	件数	重量 (kg)	件数	重量 (kg)	件数	重量 (kg)
R3	4	221.6	-	-	4	139.9	219	75,839.7
R4	58	2,738.9	-	-	9	326.1	17	17,812.6
R5	32	1,673.8	-	-	13	483.0	-	-
R6	640	28,778.7	-	-	6	440.2	-	-
R7	696	27,234.1	-	-	3	222.7	-	-

第Ⅲ章 調査・研究

1 調査・研究発表状況

年度別調査・研究発表状況

年度	題 名	発 表 学 会 名 そ の 他	実 施 者 (○印発表者)
H23	福岡市中央卸売市場食肉市場に搬入された豚のカンピロバクター保菌状況調査について	平成 23 年度食品衛生研究発表会	○馬場由紀子、内有希 小西智子、小島和也 丸山浩幸
	食肉等に関する苦情相談事例	平成 23 年度食品衛生研究発表会	○田中明希子、山脇正己 筑網麻里絵、井崎進一
	牛・豚の糞便および市販鶏肉における ESBL 産生菌の実態調査	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 第 31 回微生物部会研修会	○小西智子、内有希 馬場由紀子、丸山浩幸 倉成武裕
	Propidium monoazide(PMA)を用いた豚丹毒菌の生・死菌判別方法の検討	九州食肉衛生検査所協議会 平成 23 年度食肉衛生発表会	○小西智子、内有希 小島和也、馬場由紀子 丸山浩幸、倉成武裕
	免疫染色が診断に有効であった牛の頭頂部腫瘍	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第 63 回病理研修会 平成 23 年度食肉衛生発表会	○田中明希子、荒木航 筑網麻里絵、山脇正己 井崎進一
H24	牛の胸腔内および腹腔内の腫瘍	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第 65 回病理研修会	○田中明希子
H25	牛の腹腔内の腫瘍	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第 66 回病理研修会	○田中明希子
	福岡市中央卸売市場食肉市場の生産及び加工施設における衛生監視の強化について	平成 25 年度食品衛生研究発表会	○内 有希、馬場由紀子 篠原智子、丸山浩幸
	と畜場における衛生監視指導方法の検討	九州食肉衛生検査所協議会 平成 25 年度食肉衛生発表会	○内 有希、馬場由紀子 篠原智子、丸山浩幸
H26	牛の腹腔内腫瘍	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第 69 回病理研修会	○荒木航
	LC/MS/MSを用いた簡易一斉スクリーニング法による残留動物用医薬品の検出事例について	九州地区食肉衛生検査所協議会 平成 26 年度食肉衛生発表会	○上田英弘、岡村啓吾 山崎まゆ、徳田三郎
H27	福岡市中央卸売市場食肉市場に搬入された牛白血病ウイルス感染牛の遺伝子型別調査	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 九州食肉衛生検査所協議会 平成 27 年度食品衛生研究発表会	○大川有希、藤田 淳 荒木夏世、池見由希 小玉慎二、吉田英弘
	ふき取り検査結果と解体後検査における疾病との関連性	平成 27 年度獣医学術九州地区学会 平成 27 年度食品衛生研究発表会	○藤田淳、大川有希 荒木夏世、吉田英弘
	動物用医薬品一斉試験法Ⅲの改良及び妥当性評価について	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会 平成 27 年度食肉衛生発表会	○廣田淳一、岡村啓吾 松田青葉、上田英弘 山崎まゆ
H28	QuEChERS法キットを用いた動物用医薬品の迅速一斉分析法の検討	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会	○岡村啓吾、廣田淳一 松田青葉、上田英弘
	食肉市場のISO22000導入に係る食肉衛生検査所の取組み	九州食肉衛生検査所協議会 平成 28 年度食品衛生研究発表会	○荒木夏世、藤田淳 大川有希、小玉慎二 吉田英弘
H29	食肉衛生検査所における動物用医薬品検査状況について	平成 29 年度食品衛生研究発表会	○松田青葉、篠崎亜也子 岡村啓吾、上田英弘
R1	Clostridium属菌が検出された牛と豚の症例	令和元年度九州地区食肉衛生検査所協議会大会	○近藤芳和子、藤代敏行 河野恵子、庄嶋貴之

R6	と畜場で後大静脈血栓を認めた牛10例	令和6年度獣医学術九州地区学会	○渡邊祐佳、諏訪真千子 上野稚都恵、宮代守
	kintoneを活用した衛生監視について	全国食肉衛生検査所協議会微生物学部会 令和6年度食肉衛生発表会	○諏訪真千子、生石育代 宮代守
	残留動物用医薬品検査状況及びスクリーニング検査におけるLC-MS/MSの活用について	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会	○生石育代、山崎まゆ 内田大貴、上田英弘
	豚解体処理工程での衛生状況改善のための試みについて	九州地区食肉衛生検査所協議会	○上野稚都恵、諏訪真千子 渡邊祐佳、宮代守